

m.H  
PCT

世界知的所有権機関  
国際事務局  
特許協力条約に基づいて公開された国際出願



RH

BEST AVAILABLE COPY

<p>(51) 国際特許分類6 G06T 1/00</p>	<p>A1</p>	<p>(11) 国際公開番号 WO00/13141</p> <p>(43) 国際公開日 2000年3月9日(09.03.00)</p>		
<table border="1"><tr><td data-bbox="99 390 802 1087"><p>(21) 国際出願番号 PCT/JP99/04391</p><p>(22) 国際出願日 1999年8月12日(12.08.99)</p><p>(30) 優先権データ 特願平10/244690 1998年8月31日(31.08.98) JP</p><p>(71) 出願人 (米国を除くすべての指定国について) 株式会社 日立製作所(HITACHI, LTD.)(JP/JP) 〒101-8010 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 Tokyo, (JP) 日立ビアメカニクス株式会社 (HITACHI VIA MECHANICS, LTD.)(JP/JP) 〒243-0488 神奈川県海老名市上今泉2100番地 Kanagawa, (JP)</p><p>(72) 発明者 ; および (75) 発明者 / 出願人 (米国についてのみ) 荒井俊史(ARAI, Toshifumi)(JP/JP) 待井君吉(MACHII, Kimiyoshi)(JP/JP) 桂 晃洋(KATSURA, Koyo)(JP/JP) 〒319-1292 茨城県日立市大みか町七丁目1番1号 株式会社 日立製作所 日立研究所内 Ibaraki, (JP)</p></td><td data-bbox="802 390 1521 1087"><p>渡辺英之(WATANABE, Hideyuki)(JP/JP) 〒243-0488 神奈川県海老名市上今泉2100番地 日立ビアメカニクス株式会社内 Kanagawa, (JP)</p><p>(74) 代理人 高田幸彦, 外(TAKADA, Yukihiro et al.) 〒317-0073 茨城県日立市幸町二丁目1-48 Ibaraki, (JP)</p><p>(81) 指定国 CN, KR, US, 欧州特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE)</p><p>添付公開書類 国際調査報告書</p></td></tr></table>			<p>(21) 国際出願番号 PCT/JP99/04391</p> <p>(22) 国際出願日 1999年8月12日(12.08.99)</p> <p>(30) 優先権データ 特願平10/244690 1998年8月31日(31.08.98) JP</p> <p>(71) 出願人 (米国を除くすべての指定国について) 株式会社 日立製作所(HITACHI, LTD.)(JP/JP) 〒101-8010 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 Tokyo, (JP) 日立ビアメカニクス株式会社 (HITACHI VIA MECHANICS, LTD.)(JP/JP) 〒243-0488 神奈川県海老名市上今泉2100番地 Kanagawa, (JP)</p> <p>(72) 発明者 ; および (75) 発明者 / 出願人 (米国についてのみ) 荒井俊史(ARAI, Toshifumi)(JP/JP) 待井君吉(MACHII, Kimiyoshi)(JP/JP) 桂 晃洋(KATSURA, Koyo)(JP/JP) 〒319-1292 茨城県日立市大みか町七丁目1番1号 株式会社 日立製作所 日立研究所内 Ibaraki, (JP)</p>	<p>渡辺英之(WATANABE, Hideyuki)(JP/JP) 〒243-0488 神奈川県海老名市上今泉2100番地 日立ビアメカニクス株式会社内 Kanagawa, (JP)</p> <p>(74) 代理人 高田幸彦, 外(TAKADA, Yukihiro et al.) 〒317-0073 茨城県日立市幸町二丁目1-48 Ibaraki, (JP)</p> <p>(81) 指定国 CN, KR, US, 欧州特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE)</p> <p>添付公開書類 国際調査報告書</p>
<p>(21) 国際出願番号 PCT/JP99/04391</p> <p>(22) 国際出願日 1999年8月12日(12.08.99)</p> <p>(30) 優先権データ 特願平10/244690 1998年8月31日(31.08.98) JP</p> <p>(71) 出願人 (米国を除くすべての指定国について) 株式会社 日立製作所(HITACHI, LTD.)(JP/JP) 〒101-8010 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 Tokyo, (JP) 日立ビアメカニクス株式会社 (HITACHI VIA MECHANICS, LTD.)(JP/JP) 〒243-0488 神奈川県海老名市上今泉2100番地 Kanagawa, (JP)</p> <p>(72) 発明者 ; および (75) 発明者 / 出願人 (米国についてのみ) 荒井俊史(ARAI, Toshifumi)(JP/JP) 待井君吉(MACHII, Kimiyoshi)(JP/JP) 桂 晃洋(KATSURA, Koyo)(JP/JP) 〒319-1292 茨城県日立市大みか町七丁目1番1号 株式会社 日立製作所 日立研究所内 Ibaraki, (JP)</p>	<p>渡辺英之(WATANABE, Hideyuki)(JP/JP) 〒243-0488 神奈川県海老名市上今泉2100番地 日立ビアメカニクス株式会社内 Kanagawa, (JP)</p> <p>(74) 代理人 高田幸彦, 外(TAKADA, Yukihiro et al.) 〒317-0073 茨城県日立市幸町二丁目1-48 Ibaraki, (JP)</p> <p>(81) 指定国 CN, KR, US, 欧州特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE)</p> <p>添付公開書類 国際調査報告書</p>			
<p>(54)Title: PEN TYPE INPUT DEVICE WITH CAMERA</p> <p>(54)発明の名称 カメラ付きペン型入力装置</p> <div data-bbox="456 1318 1117 1633"></div> <p>(57) Abstract</p> <p>A pen type input device with a camera which is enhanced in ease-of-use by an improved device configuration, which is constructed to be compatible with any object specifying a lateral or longitudinal oblong, and which comprises means for specifying an object and processing descriptions at the same time and means for detecting an erroneously specified object by a user and instructing the user of correct object specifying steps.</p>				

## (57)要約

装置構成を工夫して使い勝手を向上させたカメラ付きペン型入力装置が開示されている。カメラ付きペン型入力装置は、横長および縦長のいずれの対象の指示にも適するように構成されている。また、対象と処理内容を同時に指定するための手段、さらには、利用者が誤った方法で対象を指示したことを検出し、それに応じて正しい対象指示方法を利用者に教示するための手段を備えている。

PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第一頁に掲載されたPCT加盟国を同定するために使用されるコード(参考情報)

AE	アラブ首長国連邦	DM	ドミニカ	KZ	カザフスタン	RJ	ロシア
AL	アルバニア	EE	エストニア	LC	セントルシア	SD	スーダン
AM	アルメニア	ES	スペイン	LI	リヒテンシュタイン	SE	スウェーデン
AT	オーストリア	FI	フィンランド	LK	スリ・ランカ	SG	シンガポール
AU	オーストラリア	FR	フランス	LR	リベリア	SI	スロヴェニア
AZ	アゼルバイジャン	GA	ガボン	LS	レソト	SK	スロヴァキア
BA	ボスニア・ヘルツェゴビナ	GB	英国	LT	リトアニア	SL	シエラ・レオネ
BB	バルバドス	GD	グレナダ	LU	ルクセンブルグ	SN	セネガル
BE	ベルギー	GE	グルジア	LV	ラトヴィア	SZ	スワジランド
BF	ブルキナ・ファソ	GH	ガーナ	MA	モロッコ	TD	チャード
BG	ブルガリア	GM	ガンビア	MC	モナコ	TG	トーゴ
BJ	ベナン	GN	ギニア	MD	モルドヴァ	TJ	タジキスタン
BR	ブラジル	GW	ギニア・ビサオ	MG	マダガスカル	TZ	タンザニア
BY	ベラルーシ	GR	ギリシャ	MK	マケドニア旧ユーゴスラヴィア 共和国	TM	トルクメニスタン
CA	カナダ	HR	クロアチア	ML	マリ	TR	トルコ
CF	中央アフリカ	HU	ハンガリー	MN	モンゴル	TT	トリニダード・トバゴ
CG	コンゴ	ID	インドネシア	MR	モーリタニア	UA	ウクライナ
CH	スイス	IE	アイルランド	MW	マラウイ	UG	ウガンダ
CI	コートジボワール	IL	イスラエル	MX	メキシコ	US	米国
CM	カメルーン	IN	インド	NE	ニジェール	UZ	ウズベキスタン
CN	中国	IS	アイスランド	NL	オランダ	VN	ヴェトナム
CR	コスタ・リカ	IT	イタリア	NO	ノルウェー	YU	ユーゴスラビア
CJ	キューバ	JP	日本	NZ	ニュージーランド	ZA	南アフリカ共和国
CY	キプロス	KE	ケニア	PL	ポーランド	ZW	ジンバブエ
CZ	チェッコ	KG	キルギスタン	PT	ポルトガル		
DE	ドイツ	KP	北朝鮮	RO	ルーマニア		
DK	デンマーク	KR	韓国				

## 明 細 書

## カメラ付きペン型入力装置

## 技術分野

- 5       本発明は、使い勝手を向上させたカメラ付きペン型入力装置に係り、さらに詳細には、利用者が情報処理装置の機能を簡単に呼び出すためのユーザインタフェース手法を用いたカメラ付きペン型入力装置に関する。すなわち、本発明は、情報処理装置において使用される手持ち画像入力装置に関するものである。

## 10   背景技術

- カメラ付きペン型入力装置に関わる従来技術として、エイシーエム・プレス社発行の「計算システムにおける人的要素」(ACM PRESS, HUMAN FACTORS IN COMPUTING SYSTEMS、CHI 95 CONFERENCE COMPANION、P256-P257)に記載の MEMO-PEN (メモペン) がある。MEMO-PENとは、小型カメラを  
15    ペンの軸に埋め込み、ペン先ごしにペン先の近傍を連続撮影することで、筆跡を記録するものである。MEMO-PENのカメラが撮影する範囲は、筆跡の方向が判別するために必要なごく狭い領域に限られている。

- MEMO-PENでは、ペン軸にカメラが埋め込まれているため、利用者が手で持つ場所よりも先端の近くに光学系を配置しないと、利用者の手によって  
20    カメラの視野を妨げられてしまう。このため、視野角が広い光学系を用いたとしても、光学系を対象物(紙)から離せる距離に限度があるため、カメラの視野を広く取れないという問題がある。また、利用者が自然にペンを保持した状態では、ペン軸が垂直から大きく傾くのが普通であるため、ペン軸に埋め込まれたカメラで撮影された画像は、対象を斜めから見たものになってしまう。

- 25       MEMO-PENの機能は、利用者がMEMO-PENで書いた筆跡を記録しておき、後に何らかの情報処理装置の助けを借りて、筆跡を再生したり、文字を認識したりすることである。すなわち、筆跡データを収集している最中、

換言すれば利用者がMEMO-PENを利用している最中には、このカメラ付きペン型入力装置を用いて、情報処理装置の機能を呼び出すといったユーザ・インタフェースが実行されることはない。したがって、入力中の処理対象（筆跡）に対して適用する処理の種類を、ペンによって指定したりすることはない。

- 5 さらに、MEMO-PENの場合は、ペン先と筆跡の位置は常に一致しているため、入力対象（筆跡）とペン先の位置関係を調整したりする必要はない。

- また、カメラ付きペン型入力装置に関わる従来技術として、上述のエイシーエム社の「計算システムにおける人的要素」の97年学会誌（ACM PRESS, HUMAN FACTORS IN COMPUTING SYSTEMS、CHI 97 CONFERENCE PROCEEDINGS、
- 10 P327- P334）に記載の PaperLink （ペーパリンク）というシステムがある。PaperLink では、利用者が処理対象を入力するための装置として、小型カメラを装着したペン型の入力装置を用いる。小型カメラは、利用者が自然にペンを保持した状態で、真上から対象（紙面）を見下ろすような位置に設置されている。カメラの視野は、ペン先付近の数cm四方を撮影できるように設定されている。
- 15 撮影されたペン先付近の画像は、情報処理装置に入力され、その内容に応じて色々な処理が実行される。入力した対象が既知のものであれば、それに応じた所定の処理が実行される。例えば、所定のファイルを開いて利用者に提示したり、所定のプログラムが実行を開始したりする。また、入力した対象が未知のものであれば、一時的に保存され、後に実行されるコマンドへの引数として使用されたりする。
- 20

本発明が解決しようとする課題は、小型カメラをペン状のものに装着し、画像を用いて対象を入力する装置において、使い勝手を低下させる事柄である。

- MEMO-PENにおいて本発明で解決しようとする課題は、光学系まで含めたカメラがペン軸に組み込まれているために、カメラに広い視野を持たせることが困難であるという点である。
- 25

また、上述のPaperLink に関しては、まずペン軸とカメラの中心軸が同一平面上になるように配置されているため、自然な操作で縦長のパターンを指し示

することができないという問題がある。

さらにPaperLink の入力装置では、対象を指し示す方法が一種類しかないため、処理対象と処理の種類を同時に指定できない。

またPaperLink のように、ペン先をカメラが上から見下ろすような構成では、  
5 利用者が指示対象とペン先を重ねてしまうと、ペン先によって指示対象が隠されてしまい、正しく入力できないという状態になる。

また、上記のようにペン先と指定対象を重ねられないことから、対象の指示方法に利用者の好みを反映させる必要が生じる。すなわち、カメラ付きペン型入力装置においては、指示対象の位置とペン先の位置との間の関係は、利用者の指示方法の好みによって色々と変わりうる。例えば横長の対象を利用者が指示する場合、ある利用者は真中付近を指示するであろうし、別な利用者は右下を指示するかも知れない。また、対象を指し示す際のペンの傾きなども、利用者ごとに異なるであろう。

## 15 発明の開示

本発明の目的は、上述の課題を解決し、使い勝手を向上させたカメラ付きペン型入力装置を提供することにある。

上記目的を達成するため、本発明では、次のような手段を設けている。

本発明では、カメラをペンに装着する際に、カメラの中心軸をペンの中心の  
20 左右にずらして配置する。利用者が縦長の対象を右側から指示する場合、すなわち利用者が右手で対象指示する場合は、カメラをペン軸よりも左側に設置する。これにより、ペン軸がカメラと対象の間に入って邪魔になることがなくなる。逆に、利用者が縦長の対象を左側から指示する場合、すなわち利用者が左手で対象指示する場合は、カメラをペン軸よりも右側に設置する。また、カメラ  
25 を左右にずらして固定する代わりに、カメラが左右に 0 から 90 度の範囲で回転しながら、左右にずれるような構成にする。

また、小型カメラまたはそれを装着したペンの部分に、指示された対象に適

用する処理の種類を指定するための処理指定装置を設ける。この処理指定装置は、例えば多色ボールペンでペン先の色を切り替えるための仕掛けのようなものである。利用者は、あらかじめ処理指定装置により、所定の処理を設定しておけば、処理対象指定と同時にその処理を起動することができるようになる。

- 5 処理指定装置は、ペン先の形状または色を変更するものであってもよい。ペン先は対象を指し示すための部分であるため、利用者は指示対象を視界に捉えながら、処理の種類に対応するペン先の形状または色をも同時に見ることができる。

- 10 また、利用者に正しい対象指示方法を教示する指示方法教示手段を設けるとともに、利用者の対象指示方法が正しくないことを検出する不正指示検出手段を設ける。不正指示検出手段は、例えば、検出された対象の領域と、ペン先が写り込む領域が重なっていたことを検出したら、利用者の対象指示方法が正しくないと判定できる。また、対象抽出に連続して所定の回数だけ失敗した際に、利用者の対象指示方法が正しくないと判定してもよい。

- 15 さらに、利用者がカメラ付きペン型入力装置を用いて対象指定する際の好みを設定するために、指差補正手段を設ける。指差補正手段とは、一般のタブレットディスプレイにおける視差補正手段とは異なり、カメラ付きペン型入力装置とそれによって指示される対象の位置関係についての利用者の好みを登録する手段である。

20

#### 図面の簡単な説明

第1図は、ビデオペンを用いたシステム全体の構成を示した図である。

第2図は、ビデオペンの構成を示した図である。

第3図は、ビデオペンを上から示した図である。

- 25 第4図は、ビデオペンで横書き文書中の行を撮影した画像の一例を示した図である。

第5図は、ビデオペンで縦書き文書中の行を撮影した画像の一例を示した図

である。

第6図は、左利用のビデオペンの構成を、上から示した図である。

第7図は、ビデオペンのカメラをずらす量を定量的に説明するための図である。

5 第8図は、ビデオペンのカメラをずらす量が極端に少なくて済むペン先形状の例を示した図である。

第9図は、ビデオペンの構成を示した図である。

第10図は、ビデオペンを上から示した図（横書き用の設定）である。

第11図は、ビデオペンを上から示した図（縦書き用の設定）である。

10 第12図は、横書き用の設定で、横長の対象を撮影した画像の一例を示した図である。

第13図は、縦書き用の設定で、縦長の対象を撮影した画像の一例を示した図である。

第14図は、処理指定装置の全体構成を示した図である。

15 第15図は、ビデオペンで誤った対象を指示した場合の一例を示した図である。

第16図は、対象抽出後にペン先と対象が重なっていることを検出した例を示した図である。

第17図は、指し方を教示する画面の一例を示した図である。

20 第18図は、指差補正手段が表示するメッセージの一例を示した図である。

第19図は、指差補正のために用いるシートの一例を示した図である。

第20図は、指差補正のために標準パターンを撮影した画像の一例を示した図である。

第21図は、情報処理装置の内部構成を示した図である。

25 第22図は、二値画像の一例横長の対象を入力した場合の例を示した図である。

第23図は、指差補正のための値の一例を示した図である。

第 2 4 図は、指差補正データを説明するための図である。

第 2 5 図は、対象抽出を説明するための図である。

第 2 6 図は、抽出された対象の画像の一例を示した図である。

第 2 7 図は、傾き補正を説明するための図である。

5 第 2 8 図は、傾き補正後の対象の画像の一例を示した図である。

第 2 9 図は、特徴量の一例を示した図である。

第 3 0 図は、パターン辞書の構造の一例を示した図である。

第 3 1 図は、処理テーブルの構造の一例を示した図である。

第 3 2 図は、動作テーブルの構造の一例を示した図である。

10 第 3 3 図は、情報処理装置の表示画面の一例を示した図である。

#### 発明を実施するための最良の形態

第 1 図は、本発明を実施するためのハードウェア構成の一例である。利用者は、小型のカメラ 1 0 1 を装着したペン型の入力装置を用いて、情報処理装置  
15 1 0 2 にデータを入力したり、情報処理装置 1 0 2 のコマンドを実行させたりできる。

このようなカメラ付きペン型入力装置を、以下の説明ではビデオペン 1 0 3 と呼ぶ。利用者がビデオペン 1 0 3 で何かを指示すると、ビデオペン 1 0 3 の先端に取り付けられているスイッチ、すなわちペン先スイッチ 1 0 4 が ON の状態になる。情報処理装置 1 0 2 は、ペン先スイッチ 1 0 4 が ON になったことを検出すると、ビデオペン 1 0 3 のカメラ 1 0 1 から画像を取り込み、その内容に応じて様々な処理を実行する。例えば、画像から文書中の行を抜き出し、それを文字認識しと辞書プログラムに渡し、結果をディスプレイ 1 0 5 に表示したりする。

25 第 2 図は、ビデオペン 1 0 3 の構造の一例を示したものである。ペン軸 2 0 1 は、利用者が手で持つための部分であり、その先端にペン先スイッチ 1 0 4 が取り付けられている。ペン先スイッチ 1 0 4 の先端は例えば棒状になってお



り、利用者がビデオペン 103 で対象を指し示すと、その棒がペン軸 201 に押し込まれ、電氣的な接点を ON にするようになっている。ペン軸 201 には、ビデオペン 103 先端部付近を撮影できるように、カメラ 101 が取り付けられる。カメラ 101 は、カメラ保持部品 202 によって、ペン軸 201 に取り付けられる。カメラ 101 は、利用者がペンを持つ要領でビデオペン 103 を保持した時に、なるべく先端付近を垂直に見下ろせるような位置に取り付けてある。カメラ 101 としては、市販されている小型ビデオカメラを用いることができる。4 分の 1 インチの撮像素子を用いた小型ビデオカメラは、断面は直径 1 cm 以下の円形で、長さは数 cm 程度である。また、ペン軸 201 は、通常のペンと同様に、直径が 1 cm 程度の断面が円の棒状のものである。

第 3 図は、第 2 図に示したビデオペン 103 を利用者が保持している時と同じ状態に立て、真上から見下ろした場合を示している。この場合、カメラ 101 は鉛直方向に配置されるので、断面形状と同じく円のように見える。ここで注意すべき点は、ペン軸 201 とカメラ 101 が同一平面状には配置されていないことである。カメラ 101 は、ペン軸 201 が載っている平面よりも、左側上方にずらして設置されている。これは、ビデオペン 103 で縦書きの文書中の行を指し示す際に、ペン軸 201 によって対象行が隠されてしまうのを防ぐための配慮である。

第 4 図は、第 2 図に示したビデオペン 103 で、横書き文書中の行を撮影した画像の例である。ビデオペン 103 のペン先 401 は、画像の中心より、若干右下に写っている。また、中央部には、利用者が指示した対象パターン 402 が撮影されている。

また、第 5 図は、同じく第 2 図に示したビデオペン 103 で、縦書き文書中の行を撮影した画像の例である。ビデオペン 103 のペン先 401 は、第 4 図の場合と同じ所に写っている。これは、カメラ 101 とペン軸 201 の位置関係が固定されているために当然のことである。第 5 図では、対象パターン 501 は、画像中心に上下に写っている。この際、カメラ 101 がペン軸 201 よ

りも左側にずらして設置されているため、ペン軸 2 0 1 が邪魔をして縦書き文書中の対象パターン 5 0 1 を隠してしまうことはない。

第 6 図は、左利き用のビデオペン 1 0 3 を構成する際のカメラ 1 0 1 の設置方法を、第 3 図と同様に示した物である。第 3 図に示したビデオペン 1 0 3 では、右手で操作することを前提にし、縦長の対象を右手で右側から指し示すことを想定しているが、左手で左側から縦長の対象を指示するためには、カメラ 1 0 1 をペン軸 2 0 1 よりも右側にずらして設置するようにすれば良い。これにより、縦長の対象をビデオペン 1 0 3 で左側から指示する場合でも、ペン軸 2 0 1 によって対象が隠されてしまうことを防げる。

第 7 図は、カメラ 1 0 1 をペン軸 2 0 1 の中心平面からどれだけずらせば良いかを示している。縦長の対象をペン軸 2 0 1 で隠さないためには、カメラ 1 0 1 で撮影される部分のペン軸 2 0 1 の太さ 7 0 1 の半分以上ずらす必要がある。ただし、ペン先 4 0 1 の形状によっては、上記のずれ方よりも小さくても十分である。例えばカメラ 1 0 1 の画像に入る範囲のペン先 4 0 1 が、第 8 図のような形状であった場合、ずれ方は 0 以上であればよい。したがって、カメラのずれ方は、カメラの画像に入る範囲のペン軸 2 0 1 で、ペン軸 2 0 1 の中心線よりも指示対象側に出ている部分の幅より大きくなるように調整すればよい。

第 9 図は、ビデオペン 1 0 3 の構造のもう一つの例である。ペン軸 2 0 1 の部分は第 2 図に示したものと同一であるが、カメラ 1 0 1 を取り付けの方法が異なっている。

第 10 図は、第 9 図に示したビデオペン 1 0 3 を利用者が保持している時と同じ状態に立て、真上から見下ろした場合を示している。この場合は、第 3 図の場合と異なり、カメラ 1 0 1 はペン軸 2 0 1 と同一平面上に配置されている。したがって、横長の対象を指示するためには問題はないが、縦長の対象、例えば縦書き文章の行などを指し示すと、ペン軸が邪魔になってしまう。

これを解決するために、第 9 図に示すビデオペン 1 0 3 では、カメラ 1 0 1

がペン軸 201 に対して 90 度回転しながら左側にずれるようになっている。  
第 11 図は、カメラ 101 が回転して左側にずれた状態を上から見下ろしてい  
る所である。カメラ保持部品 202 が、途中から折れ曲がり、カメラ 101 を  
90 度回転させるとともに、左側に振り出すような構造になっている。この状  
態では、縦長の対象を指す場合に、ペン軸 201 が対象を隠してしまうことは  
ない。

第 12 図は、カメラ 101 が回転されておらず、第 10 図の状態にあるとき  
に横長の対象を撮影した画像の一例である。ペン先 401 が写り込む位置が、  
画像中央の少し下である以外は、第 4 図の場合とほとんど変化はない。すなわ  
ち、横長の対象を指し示す際には、第 2 図に示したビデオペン 103 と、第 9  
図に示したビデオペン 103 では、横長の対象を指し示す際にはほとんど差が  
ないと言える。

一方、第 13 図は、カメラ 101 が第 11 図のようになっている状態で、縦  
長の対象を指し示した際の画像の一例である。この場合、カメラ 101 が 90  
度回転しているため、ペン先 401 は、画像中心の左下側に写り込む。また、  
縦長の対象は、画像の横方向に長くなるように写り込む。市販のビデオカメラ  
で撮影された画像は、一般的に横長であるから、この第 9 図に示したビデオペ  
ン 103 の構成では、縦長の対象を指示する際にも、撮像素子の画素を有効に  
使えるという利点がある。

すなわち、第 2 図に示したビデオペン 103 で縦長の対象を指示した際は、  
第 4 図に示すように画像の短辺の中に収まる対象しか入力できないが、第 9 図  
に示すビデオペン 103 では、第 13 図のように画像の長辺に収まる対象まで  
入力することができる。

ただし、第 9 図に示すビデオペン 103 では、縦長の対象を指す場合と、横  
長の対象を指す場合で、利用者がカメラ 101 の配置を切り替えなくてはなら  
ないという欠点はある。したがって、カメラ 101 の解像度および撮影範囲が  
十分に大きい時は、第 2 図の構成を用い、そうでない場合に第 9 図の構成を用

いることが望ましい。

なお、第9図に示すビデオペン103の構成では、カメラ101を右側にも振り出せるようにしておけば、縦長の対象を左側から指し示す場合にも対処できるということになるという利点もある。

- 5       また、第9図に示すビデオペン103では、情報処理装置102が対象が横長なのか縦長なのかを判定するために、ビデオペン103のカメラ101が、どこに設定されているかを読み取る必要が生じる。これは、カメラ保持部品202の状態を電氣的に読み込めるようにしても良いし、撮影された画像から判定するようにしても良い。すなわち、ペン先401が画像のどこに写り込んで
- 10       いるかを調べれば、カメラ101がどこにあるかを特定することができる。ペン先401が、第12図のように画像の中央下側に写り込んでいれば、横長の対象を撮影している場合である。また、ペン先401が、第13図のように画像の左下側に写り込んでいれば、縦長の対象を右側から指し示している場合である。同様に、ペン先401が画像の右下側に写り込んでいれば、縦長の対象
- 15       を左側から指し示している場合である。

ビデオペン103のペン軸201の部分に、指示された対象に適用する処理の種類を指定するための処理指定装置1401を設ける。この処理指定装置1401は、例えば多色ボールペンでペンの色を切り替えるための仕掛けのようなものである。第14図に、処理指定装置1401の一例を示す。利用者は、起動

20       したい処理に対応した色を、ペン軸201の上端にある回転部分1402を回すことで選択する。すると、選ばれた色に対応する芯がペン先401から出てくる。

利用者は、あらかじめ処理指定装置1401により、所定の処理を設定しておけば、処理対象指定と同時にその処理を起動することができるようになる。

25       処理指定装置1401は、ペン先401の形状または色を変更するものであってもよい。ペン先401は対象を指し示すための部分であるため、利用者は指示対象を視界に捉えながら、処理の種類に対応するペン先401の形状または

色をも同時に見ることができる。

処理指定装置の状態、すなわちどの芯が選ばれているかを読み取るためには、例えば電氣的な接点を用いる構成が考えられる。この場合は例えば、ペン先スイッチ 4 0 1 が ON になった時点で、処理指定装置 1 4 0 1 の状態を読み出すようにすればよい。

また、ペン先 4 0 1 はカメラ 1 0 1 の視野中にも入っているので、カメラ 10 1 からの画像を処理する際に、特別な電氣的な信号を用いなくても、画像処理により処理の種類を特定することも可能である。ペン先 4 0 1 とカメラ 1 0 1 の位置関係は既知であるので、カメラ 1 0 1 からの入力画像中のどこにペン先 4 0 1、特に芯があるかはあらかじめ計算しておける。画像処理の過程で、その位置にある色を調べれば、現在選択されている処理の種類を容易に判別することが可能となる。

本発明によるユーザインタフェース手法においては、利用者はビデオペン 10 3 を用いて画像により処理対象を情報処理装置 1 0 2 に入力する。したがって利用者は、処理対象を正しく入力するためには、ビデオペン 1 0 3 により正しい対象指定の方法を習得している必要がある。すなわち、ビデオペン 1 0 3 のペン先 4 0 1 で、対象を覆い隠してしまてはいけなしいし、ペン先 4 0 1 と対象が離れすぎてもいけない。

ところが、ビデオペン 1 0 3 を初めて使う利用者は、第 1 5 図のように対象の上にペン先 4 0 1 を重ねてしまいがちである。この状態は、ペン入力コンピュータのように指示する対象がシステムによる表示物であり、ペンで指示したディスプレイ上の座標を入力する手段を備えている場合には問題ない。しかし、本発明によるユーザインタフェース手法のように、ペン先 4 0 1 の付近を上から撮影した画像から指示対象を抽出する場合には、指示対象がペン先 4 0 1 で隠されてしまうことは大きな問題である。

上記のように、利用者が対象の上にペン先 4 0 1 を重ねてしまった場合に対処するため、そのような状態が起こったことを検出し、利用者に正しい指示方

法を教示する指し方教示手段が必要となる。

ペン先401と指示対象が重なったことは、次のようにして検出できる。すなわち、対象として抽出された領域と、ペン先401が写っているはずの領域を比較し、両者が重なり部分を持てば、利用者が対象とペン先401を重ねてしまったと判定すれば良い。第16図は、対象として抽出された領域1601と、ペン先401が写り込んだもの1602が重なりあっている場合の一例である。ちなみに、ペン先401が写り込む領域は、ペン軸201とカメラ101の位置関係が既知であるため、あらかじめ求めて置くことができる。上記のような方法で、利用者が対象の上にペン先401を重ねてしまったことを検出したら、本ユーザインタフェース手法では、対象の正しい指示方法を利用者に教示するための教示画面を表示する。また、連続して所定の回数、例えば3回対象抽出に失敗した場合は、指し方教示画面を表示するようにしても良い。

第17図は、上記の教示画面の一例であり、情報処理装置102のディスプレイ105に表示される。指し方教示画面は、利用者に、指し示したい対象をペン先401で隠さず、横長の対象の場合は数mm下側を、縦長の対象の場合は数mm右横を指すように教示している。

また、指し方教示画面には、後に説明する指差補正手段を呼び出すための指差補正ボタン1701が付いている。

利用者がビデオペン103で対象を指示する場合、その指し示し方には人によって色々な違いがある。例えば横長の対象を指示する場合、対象の中心の下側を指す利用者もいるであろうし、対象の右下を指す利用者もいるであろう。また、対象に対するペンの角度も、利用者によって異なる。例えば横長の対象を指示する場合、対象の真下から指す利用者もいるであろうし、対象の右下から指す利用者もいるであろう。さらに、指示対象からペン先401までの距離も、利用者によって異なるであろう。例えば横長の対象を指示する場合、対象の下側すれすれを指す利用者もいるであろうし、対象の下側1cm程度の場所を指す利用者もいるであろう。

上で述べたような、利用者による対象の指し方の違いは、利用者が指示した対象を抽出する際のパラメータに反映させなければならない。また、場合によっては、ビデオペン 103 のペン軸 201 とカメラ 101 の位置関係を調整する必要もあるかも知れない。そこで、本発明によるユーザインタフェース手法

5      では、利用者による指し方の違い（ここでは「指差」と呼ぶことにする）を、あらかじめ登録するための手段を提供する。この手段を、指差補正手段と呼ぶことにする。

指差補正手段は、本発明によるユーザインタフェース手法を初めて起動する場合や、既に述べた指差補正ボタン 1701 を押した時などに呼び出される。

10      利用者は、指差補正手段を使って、例えば次のようにして利用者の好みを登録できる。利用者が指差補正手段を起動すると、ディスプレイ 105 に第 18 図に示すようなメッセージが表示される。利用者はこのメッセージに従い、第 19 図に示すような指差補正シート上の対象をビデオペン 103 で指示する。指差補正シートは、単なる紙に横長の対象が印刷されているものである。その対象、標準パターン 1901 の形状と大きさは、あらかじめ情報処理装置 102

15      に登録されている。

利用者が標準パターン 1901 をビデオペン 103 で指示すると、入力画像として例えば第 20 図が得られる。情報処理装置 102 は、この画像を画像処理することで、利用者が対象に対してどの辺りをペン先 401 で指示したか、

20      指示した際のペン軸 201 の角度はどれくらいのか、といった情報を読み取る。このようにして読み取られた利用者の対象指定に関する好みは、情報処理装置 102 が入力画像から処理対象を抽出する際の参考値として用いられる。

本実施例では、対象と利用者が指した位置の間の距離（対象最小距離）と、ビデオペン 103 の傾き（標準傾き）を、利用者の好みとして登録するものとする。それぞれの求め方については、後に情報処理装置 102 の対象抽出部について述べる際に詳しく説明する。

25     

第 21 図は、本発明を実施するための全体構成の一例で、情報処理装置 10

2の内部構成を具体的に図示したものである。以下で、それぞれの構成要素の動作を説明する。

(1) ビデオペンインタフェース2101

利用者がビデオペン103で、入力したい対象を指示すると、ビデオペン103先端に取り付けられたペン先スイッチ104がONになる。ビデオペンインタフェース2101は、ペン先スイッチ104がONになったことを検出すると、カメラ101からの画像を1フレーム取り込んで、二値化部2102に渡す。二値化部2102に渡される画像は、例えば横320ドット、縦240ドット、一画素あたり24ビットの色数をもつカラー画像である。

また、ビデオペンインタフェース2101は、ビデオペン103に付けられた処理指定装置1401の状態を読み込み、処理指定バッファ2103に書き込む。処理指定バッファ2103に書き込まれるデータは、例えば処理指定装置1401で選ばれている芯の番号である。ただし、番号が0である場合は、処理が何も指定されていない状態であるとする。

(2) 二値化部2102

二値化部2102は、入力された画像を二値画像に変換し、その結果である二値画像を対象抽出部2104に渡す。図22は、二値化部2102から対象抽出部2104に渡される二値画像の一例である。

なお、処理指定装置1401の状態を電気的な接点によって読み出せない構成になっている場合は、入力画像の二値化に先立ち、芯が写っている領域の色を調べ、それにより何色の芯が選ばれているかを判定し、処理指定バッファ2103に選ばれていた芯の番号を書き込む。

(3) 対象抽出部2104

対象抽出部2104は、二値化部2102から渡された二値画像から、処理対象を抽出する部分である。渡された二値画像には、対象以外に色々なものが写り込んでいる。例えば、ペン先401も写り込んでいるし、対象の近くに書かれていたものも写り込んでいるであろう。対象抽出部2104の役割は、渡



された二値画像から対象だけを抜き出し、その画像を傾き補正部 2 1 0 5 に渡すことである。

利用者が対象を指し示す際の好みは、指差補正バッファ 2 1 1 2 に格納されている。指差補正バッファ 2 1 1 2 の内容は、例えば第 2 3 図に示すような値の組、すなわち対象最小距離 2 3 0 1 と標準傾き 2 3 0 2 の組である。対象最小距離 2 3 0 1 は、利用者が標準パターン 1 9 0 1 を指示した際に、ペン先 4 0 1 を対象からどれくらい離れたかを基準にして求められる。対象最小距離 2 3 0 1 は、例えば第 2 4 図中の線分 D の長さ（ドット数）と定めることができる。また、標準傾き 2 3 0 2 は、利用者がどれだけビデオペン 1 0 3 を傾けているかを表す値であり、例えば第 2 4 図中の傾き A の大きさと定めることができる。対象最小距離 2 3 0 1 の初期値は、例えば 2 0、標準傾き 2 3 0 2 の初期値は例えば 0 である。第 2 4 図の場合、対象最小距離 2 3 0 1 は 1 8 ドット、標準傾き 2 3 0 2 は 3 2 度である。

対象抽出部 2 1 0 4 が二値画像から対象を抽出する処理は、第 2 5 図を用いて説明する。なお、以下の説明では、画像中の座標系は左上が原点である。また、説明に出てくる定数は、CAMX が画像中でのペン先 4 0 1 の X 座標、CAMY は同じく Y 座標、D は対象最小距離 2 3 0 1 である。CAMX、CAMY は、ペン軸 2 0 1 とカメラ 1 0 1 の位置関係が既知であるため、あらかじめ求めておける値であり、D は上述のように指差補正バッファ 2 1 1 2 から読み出せる値である。

まず対象抽出部 2 1 0 4 は、ペン先 4 0 1 の座標（CAMX、CAMY）から D だけ上の点 S（CAMX、CAMY - D）から、上に向かって対象の画素を探して行く。すなわち、第 2 5 図の中の線分 L に沿って、対象の画素を探して行く。この段階で、対象に属すると思われる画素が一つも見つからなければ、対象抽出は失敗である。ここで見つかった対象の画素は、対象領域として記憶される。

次に対象抽出部 2 1 0 4 は、対象領域の近傍を調べ、対象領域から所定の距

離以内にある画素を新たに対象領域に取り込んで行く。所定の距離とは例えば 10 ドットである。この処理に伴い、対象領域は徐々に拡張されて行く。対象抽出部 2104 は、それ以上取り込める画素がなくなった時点で、この拡張処理を終える。この拡張処理が終わった時点で、対象領域として記憶されていた画素の集まりを、利用者が指示した対象であると判定する。

対象抽出部 2104 が対象を抽出し終えた時点で、抽出された対象領域と、ペン先 401 が映り込んでいる領域を比較し、両者が重なり部分を持つ場合は、利用者が対象とペン先 401 を重ねてしまったものと判定できる。例えば、第 16 図のような場合である。したがってこのような場合は、利用者に指し方教示画面を提示し、正しい対象指定方法を教示する。また、対象抽出に連続して失敗した場合にも、利用者に指し方教示画面を提示し、正しい対象指定方法を教示する。

例えば、第 22 図に示した二値画像に上記の方法を適用すると、第 26 図のようなパターンが対象として抽出される。この抽出結果の画像は、傾き補正部 2105 に渡される。

#### (4) 傾き補正部 2105

傾き補正部 2105 は、対象抽出部 2104 から渡された対象の画像から、対象の傾きを計算し、それを補正するためのものである。

まず傾き補正部 2105 は、受け取った対象の主軸の傾きを計算する。図 27 中の角度 R が主軸の傾きであり、この例の場合は -28 度である。これは、カメラ 101 で撮影された画像中での対象の傾きである。

次に傾き補正部 2105 は、上で計算した主軸の傾きと、指差補正バッファ 2112 中の標準傾きの値を元に、対象が書かれていた紙に対する対象の傾きを計算する。この傾きのことを、以下の説明では実傾きと呼ぶことにする。具体的には、画像中での対象の傾きと、標準傾きの値を足しあわせたものが、実傾きとなる。本実施例の場合は、画像中での対象の傾きが -28 度で標準傾きは 32 度であるから、そこから求められる実傾きの値は 4 度である。

実傾きが0に近い範囲、例えば-45度から45度の間にある場合は、傾き補正部2105は対象が横長であったものと判定し、画像中での主軸の傾きが0になるように、対象の画像を回転させる。したがって先に上げた例の場合は、画像を-28度だけ回転させることになる。回転された後の対象の画像を第2

5 8図に示す。逆に、実傾きが上記以外であった場合は、傾き補正部2105は対象が縦長であったものと判定し、画像中での主軸の傾きが90度になるように、対象の画像を回転させる。

傾き補正部2105は、以上の処理が終わり、傾きが補正された対象の画像を、特徴抽出部2106に渡す。また、傾きが補正された対象の画像を、対象

10 保持部に格納する。対象保持部に、画像を保持する場合、既に保持されていた画像があれば、それは破棄される。

#### (5) 特徴抽出部2106

特徴抽出部2106は、傾き補正部2105から送られてきた対象の画像から、特徴量を抽出するためのものである。特徴量とは、例えば対象が含む画素数、外挿矩形の大きさ、重心位置、などである。それらの特徴量は、後に対象を識別するために使用される。特徴量の一例を、第29図に示す。対象画素数PIX-NUM, 対象外挿幅BOX-WIDTH, 対象外挿高さBOX-HEIGHT, 重心X座標COG-X, 重心Y座標COG-Yなどが特徴量を構成している。それらの値はいずれも整数値である。

15

20 特徴抽出部2106により抽出された特徴量は、対象認識部2107に渡される。

#### (6) 対象認識部2107

対象認識部2107は、特徴抽出部2106から渡された特徴量を使って、現在処理中の対象が既に登録されているものか否かを判定する部分である。

25 対象認識部2107は、パターン辞書2113に登録されている複数の特徴量と、特徴抽出部2106から渡された特徴量を比較し、近い特徴量があるかどうかを調べる。パターン辞書2113は、図30に示すように、それに含ま

れる項目数を保持する辞書項目数領域と、0個以上のパターン辞書項目からなる。さらにパターン辞書項目は、特徴量を保持する特徴量領域と、対象識別番号領域からなる。本実施例では、対象識別番号領域に格納される対象識別番号として、自然数値（1，2，3，…）を用いるものとする。

5 対象認識部2107は、パターン辞書2113から、入力の特徴量と近い特徴量を持つパターン辞書項目を探し出し、その項目の対象識別番号領域に格納されていた対象識別番号を動作実行部2108に渡す。入力の特徴量と近い特徴量を持つ登録パターンが見つからなかった時は、対象認識部2107は対象識別番号として-1を動作実行部2108に渡す。

10 (7) 動作実行部

動作実行部2108は、対象認識部2107から渡された対象識別番号に基づき、所定の処理を実行する部分である。以下で、その処理内容を説明する。

対象識別番号が-1であった場合、すなわち入力対象が、既に登録されたパターンではなかった場合、動作実行部2108は、対象保持部に格納されている対象画像を読み出し、それをパターンバッファ2109に格納する。この際、  
15 パターンバッファ2109に既に格納されていた画像があれば、新たに格納される画像はその右側に追加されるものとする。パターンバッファ2109に蓄積された対象パターンは、後の処理で使用されるまで保持される。

また、対象識別番号が-1であった場合、すなわち入力対象が、既に登録されたパターンではなかった場合、動作実行部2108は、処理指定バッファに  
20 保持されている芯の番号を読み出す。芯の番号が0であった場合は何もしないが、芯の番号が0でなかった場合は、その番号に対応する動作を実行する。芯の番号と動作は、処理テーブルによって対応付けられている。

処理テーブルは、第31図に示すように、それに含まれる項目数を保持する  
35 処理項目数領域と、0個以上の処理指定項目からなる。処理指定項目は、芯の番号を保持する状態領域と、その番号が設定されている時に実行すべき動作を保持する処理指定領域からなる。動作実行部2108は、処理指定バッファに

格納されている芯の番号が0でない場合、処理テーブルを使って、その番号に対応する処理を調べ、それを実行する。

一方、対象認識部2107から渡された対象識別番号が-1で無かった場合、すなわち入力パターンが既に登録されているパターンであった場合、動作実行部2108は、その対象識別番号にどのような動作が対応付けられているかを動作テーブルを使って調べ、その動作を実行する。

動作テーブルは、第32図に示すように、それに含まれる項目数を保持する動作項目数領域と、0個以上の動作指定項目からなる。動作指定項目は、対象識別番号を保持する対象番号領域と、その対象が検出された時に実行すべき動作を保持する動作領域からなる。

動作実行部2108は、対象認識部2107から与えられた対象識別番号と同じ番号を持つ動作指定項目が動作テーブル中にあるか調べ、あればその動作指定項目の動作領域を読み出して実行する。

動作実行部2108が実行できる動作には、例えばOPEN動作がある。動作実行部2108が実行すべき動作がOPENであった場合、動作実行部2108はまず、パターンバッファ2109に格納されているパターンを、ある決められた名前のパターン画像ファイル（例えば“patterns.bmp”など）に格納する。次に、動作名OPENに続いて格納されているファイル名またはプログラム名を参照し、そのファイルを開いたりプログラムを起動したりする。

動作実行部2108により起動されたプログラムは、パターン画像ファイルを読み込んで、任意の処理に利用することができる。例えば、パターン画像ファイルに格納されている画像を、文字列とみなして文字認識を試みたりできる。また、動作実行部2108により起動されたプログラムは、情報処理装置102の任意の機能を利用できる。例えば、情報処理装置102に組み込まれている百科事典プログラムの機能を呼び出したり、地図プログラムの機能を呼び出したりできる。

上記を組み合わせば、動作実行部2108から起動されるプログラムとして、

パターンバッファ 2109の内容を文字認識し、それを百科事典プログラムに渡して調べた意味を表示させる、といったようなプログラムを実現することができる。

図33は、本発明を実施するための情報処理装置102のディスプレイ105に表示される画面の一例である。利用者がビデオペン103で入力した画像は、処理過程表示領域に表示される。処理過程表示領域には、入力された画像を処理して行く過程も表示される。処理過程表示領域の右側は、システムメッセージ領域である。ここには、情報処理装置102から利用者へのメッセージが表示される。画面の下側には、パターンバッファ領域がある。パターンバッファ領域には、利用者がビデオペン103で指し示した処理対象で、情報処理装置102が一時的に保存しているものが表示される。

本発明によれば、自然な操作で対象を入力できる。また、利用者の操作数を大幅に減らせるという利点がある。さらに、利用者が誤った対象指定方法を繰り返して混乱してしまうことを防げる。

## 請 求 の 範 囲

1. ペンと、前記ペンに取り付けられペン先を撮影するカメラとを有するカメラ付きペン型入力装置であって、

5 前記カメラで撮影された画像の中心位置が前記ペンの先端よりも左側に位置するように、前記カメラが前記ペンに取り付けられているカメラ付きペン型入力装置。

2. ペンと、前記ペンに取り付けられペン先を撮影するカメラとを有するカメラ付きペン型入力装置であって、

10 前記カメラは、前記カメラで撮影された画像の中心位置が前記ペンの先端よりも右側に位置するように前記ペンに取り付けられているカメラ付きペン型入力装置。

3. 請求項 1 または請求項 2 のカメラ付きペン型入力装置において、

15 前記カメラは前記ペンの軸に対して少なくとも 0～90 度の範囲で回転できるように、前記ペンに取り付けられているカメラ付きペン型入力装置。

4. ペンと、前記ペンに取り付けられペン先を撮影するカメラと、前記カメラで撮影した画像の処理を行う情報処理装置とを有するカメラ付きペン型入力装置であって、

20 前記情報処理装置は、前記カメラで撮影された画像における前記ペンの先端の位置によって、前記カメラで撮影された対象画像の向きを判定するカメラ付きペン型入力装置。

25 5. ペンと、前記ペンに取り付けられペン先を撮影するカメラと、前記カメラで撮影した画像の処理を行う情報処理装置とを有するカメラ付きペン型入力装置であって、

前記情報処理装置は、前記カメラによって撮影された画像から処理をすべき対象を抽出すると共に、前記撮影された画像から実行すべき処理を決定し、前記抽出した対象の処理を行うカメラ付きペン型入力装置。

5      6.    請求項 5 のカメラ付きペン型入力装置において、

前記情報処理装置は、前記カメラによって撮影された色に基づいて実行すべき処理を決定するカメラ付きペン型入力装置。

10      7.    ペンと、前記ペンに取り付けられペン先を撮影するカメラと、前記カメラで撮影した画像の処理を行う情報処理装置とを有するカメラ付きペン型入力装置であって、

前記情報処理装置は、前記カメラによって撮影された画像から抽出した対象と前記ペン先の位置を検出し、この検出結果に基づいてペンの指示を示す画面を表示するカメラ付きペン型入力装置。

15

8.    請求項 7 のカメラ付きペン型入力装置において、

前記情報処理装置は、前記抽出した対象と前記ペン先が所定回数以上重なった画像を撮影した場合にペンの指示を示す画面を表示するカメラ付きペン型入力装置。

20

9.    ペンと、前記ペンに取り付けられペン先を撮影するカメラと、前記カメラで撮影した画像の処理を行う情報処理装置とを有するカメラ付きペン型入力装置であって、

25      前記情報処理装置は、前記カメラによって撮影された標準パターンを抽出し、この抽出した結果に基づいて撮影された画像を補正して対象を抽出するカメラ付きペン型入力装置。



図 1

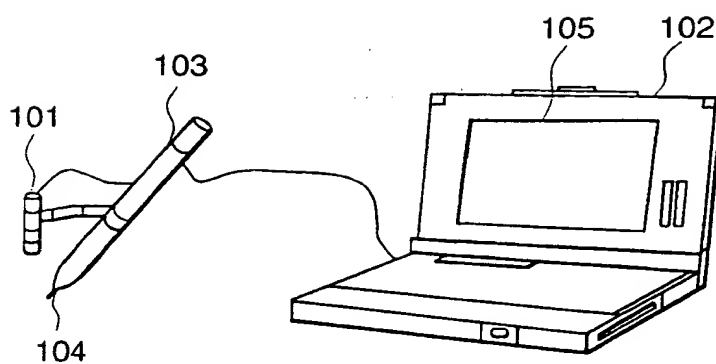
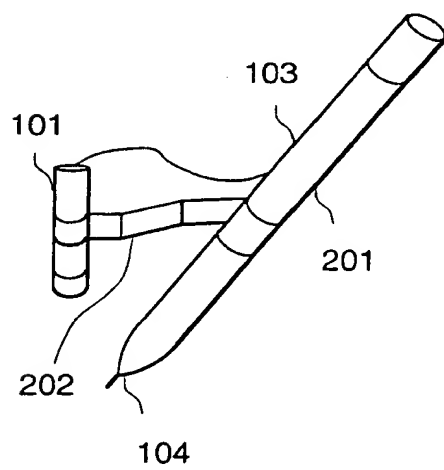


図 2



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

2 / 17

図 3

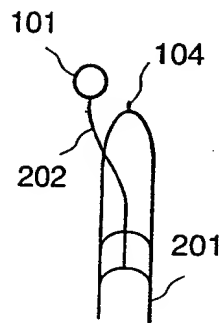
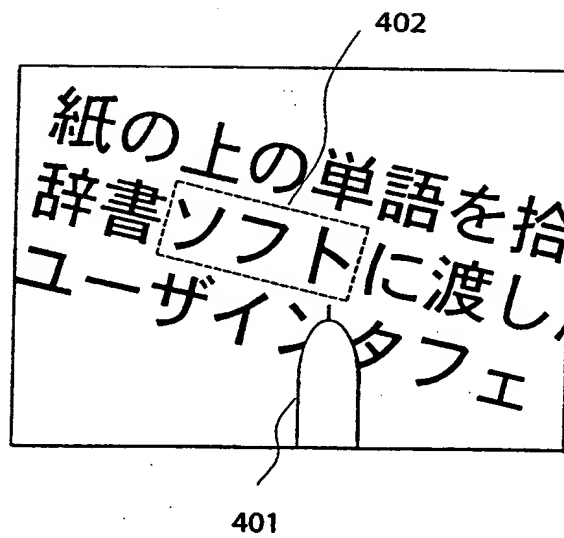


図 4



3/17

図 5

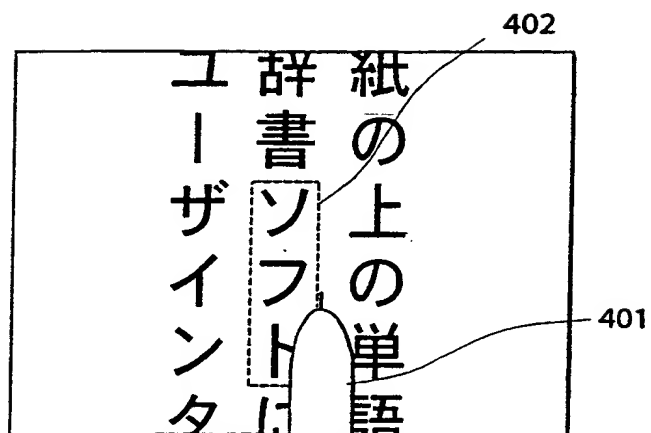


図 6

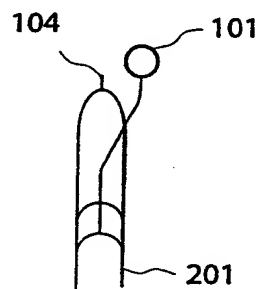
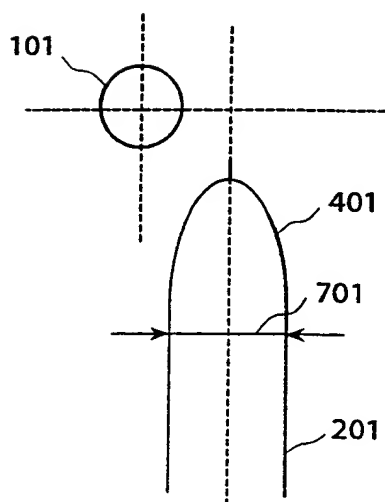


図 7



4 / 17

図 8

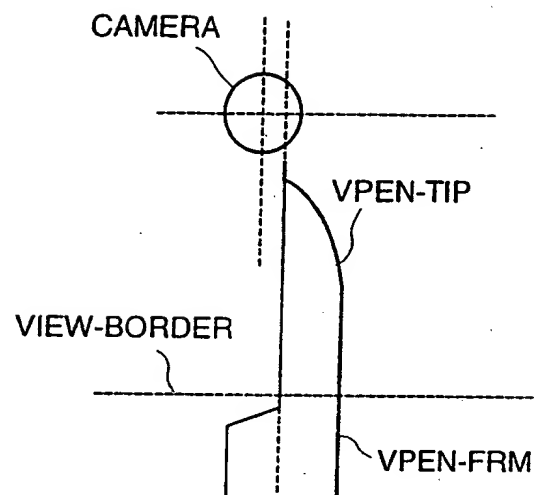
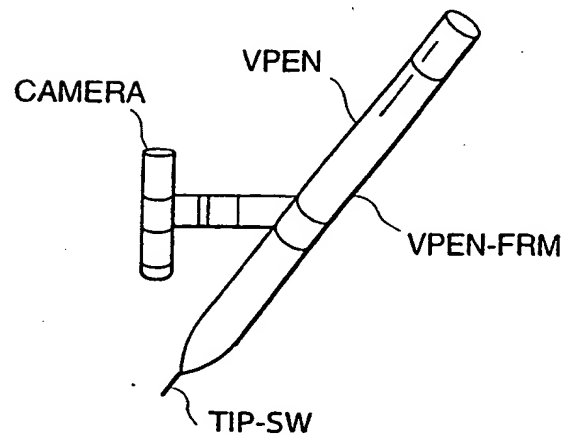


図 9



5/17

図 10

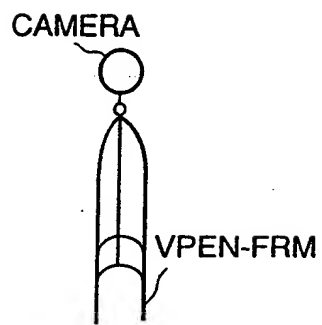


図 11

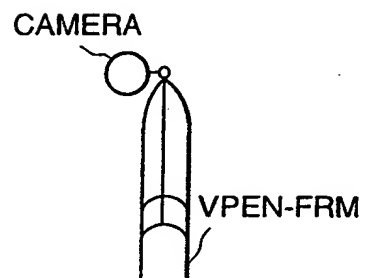
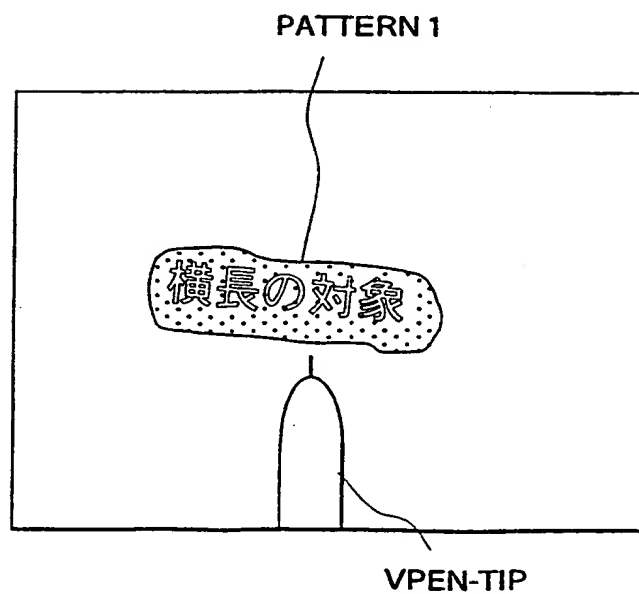


図 12



6 / 17

図 13

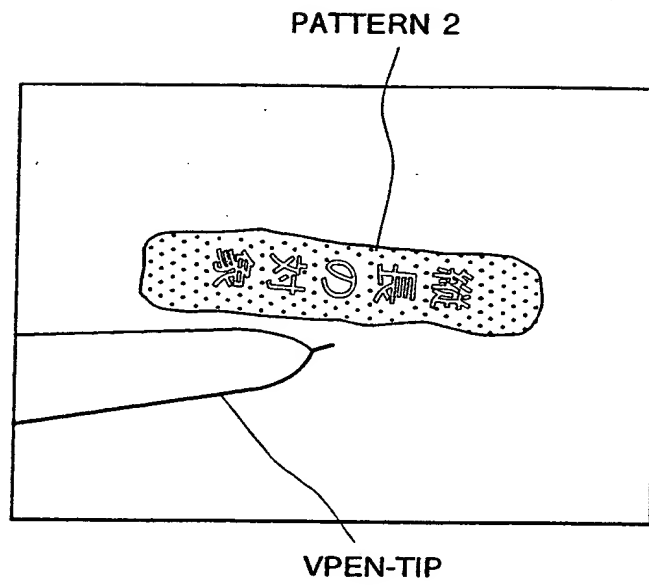
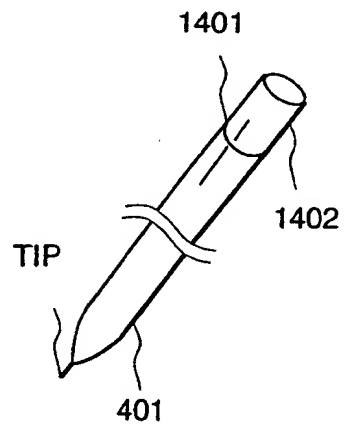


図 14



7/17

図 15

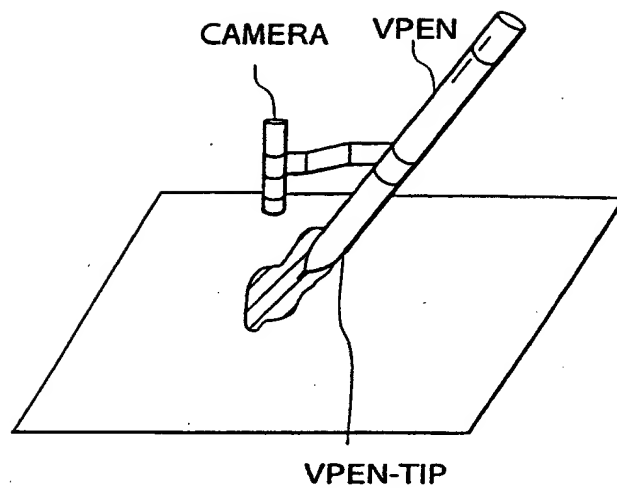
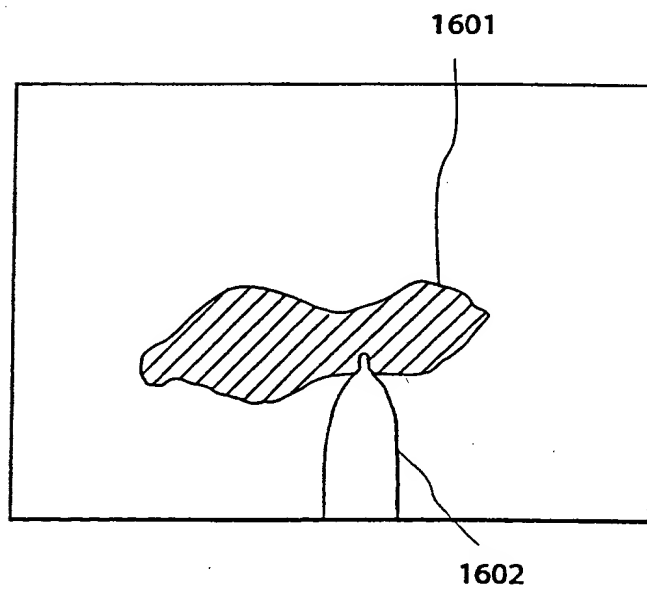


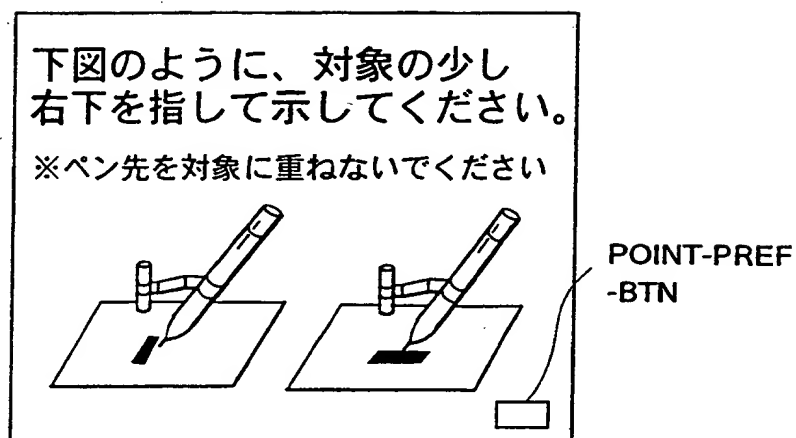
図 16





8 / 17

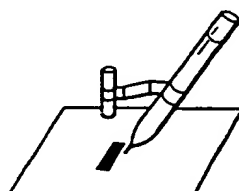
図 17



POINT-TUTORIAL-DIALOG

図 18

指差補正シート上の標準パター  
ンを、ビデオペンで指し示して  
ください。



9/17

図 19

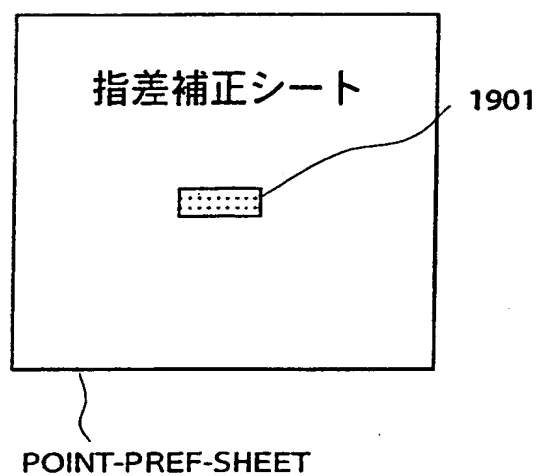


図 20

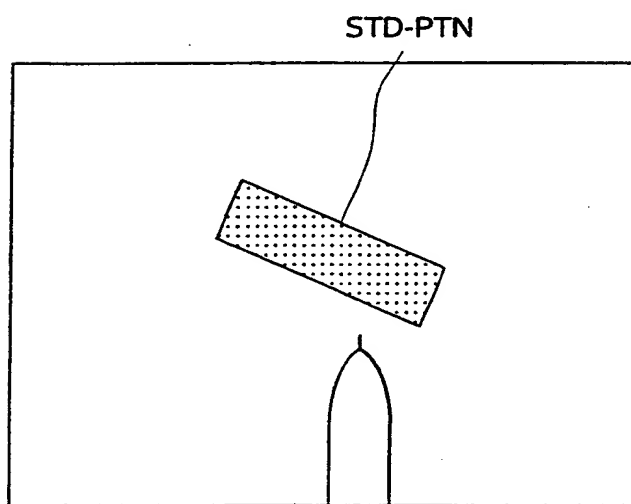
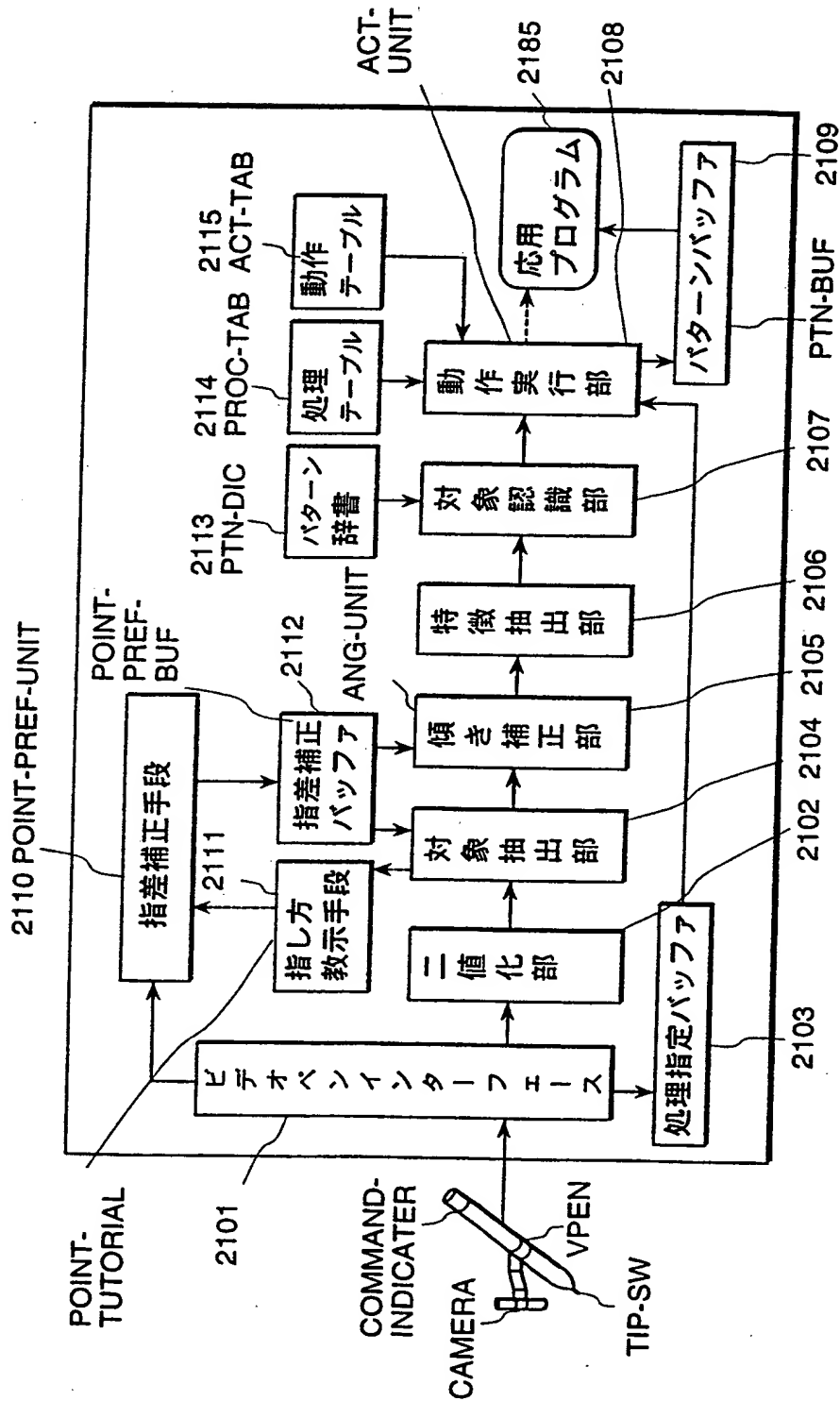


図 21



11/17

図 22

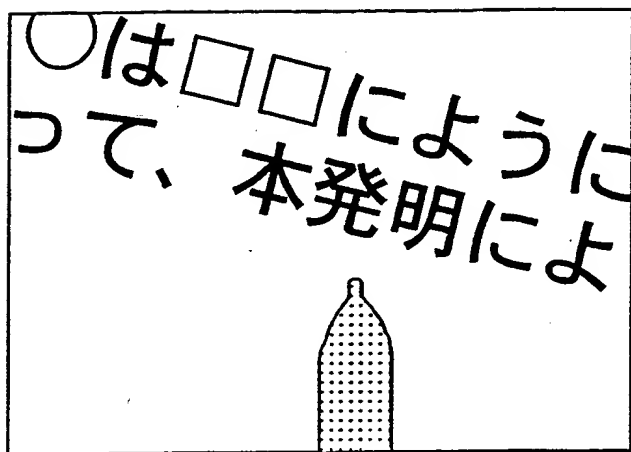


図 23

対象最小距離	18 ビット	2301
標準傾き	32 度	2302

図 24

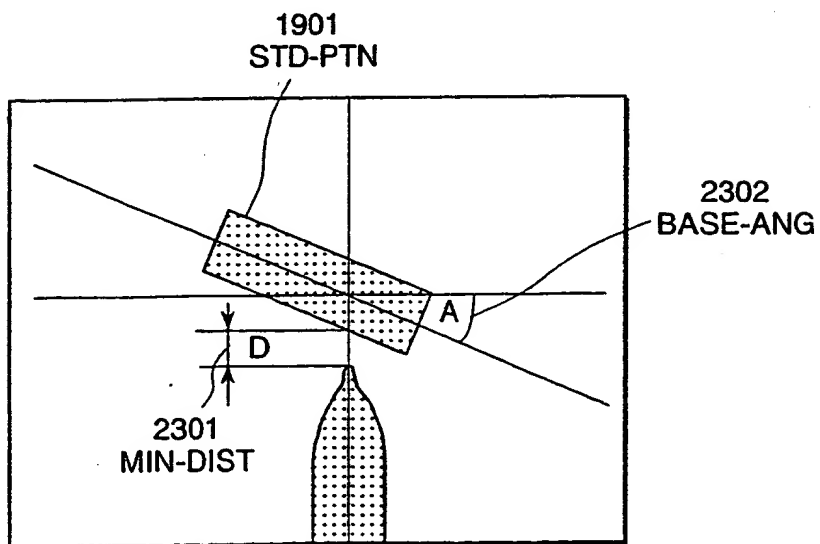


図 25

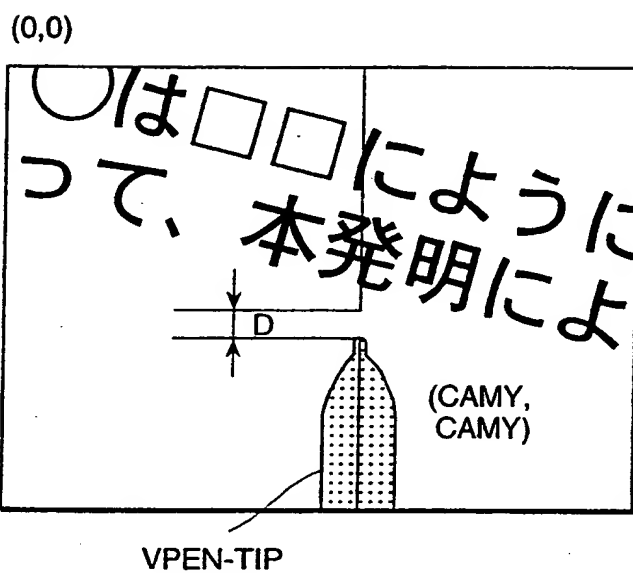


図 26

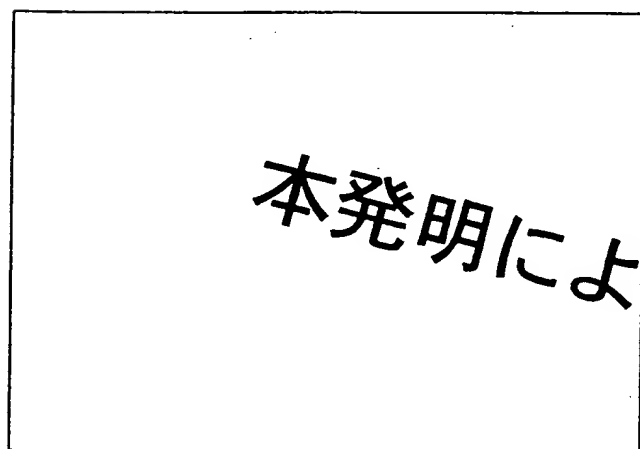


図 27

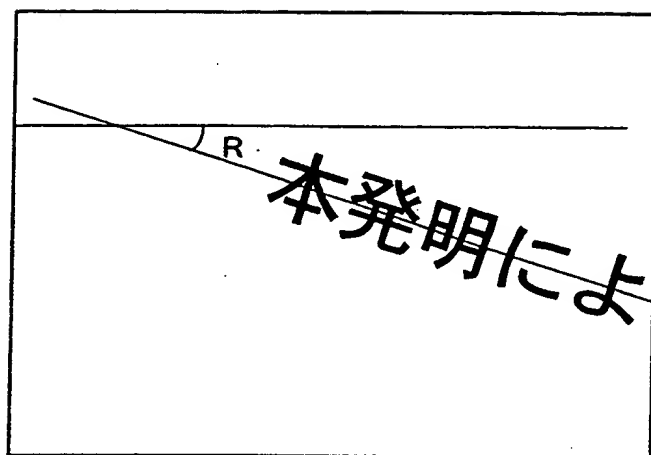
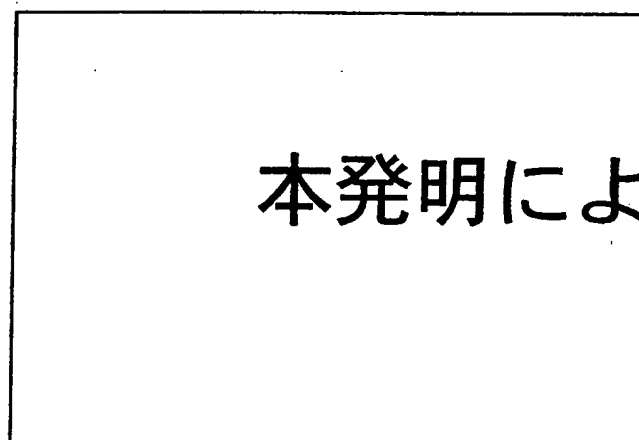


図 28



14 / 17

図 29

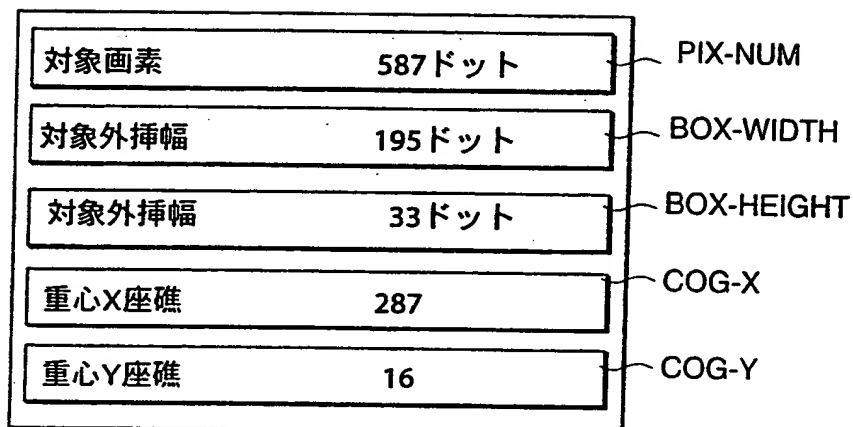


図 30

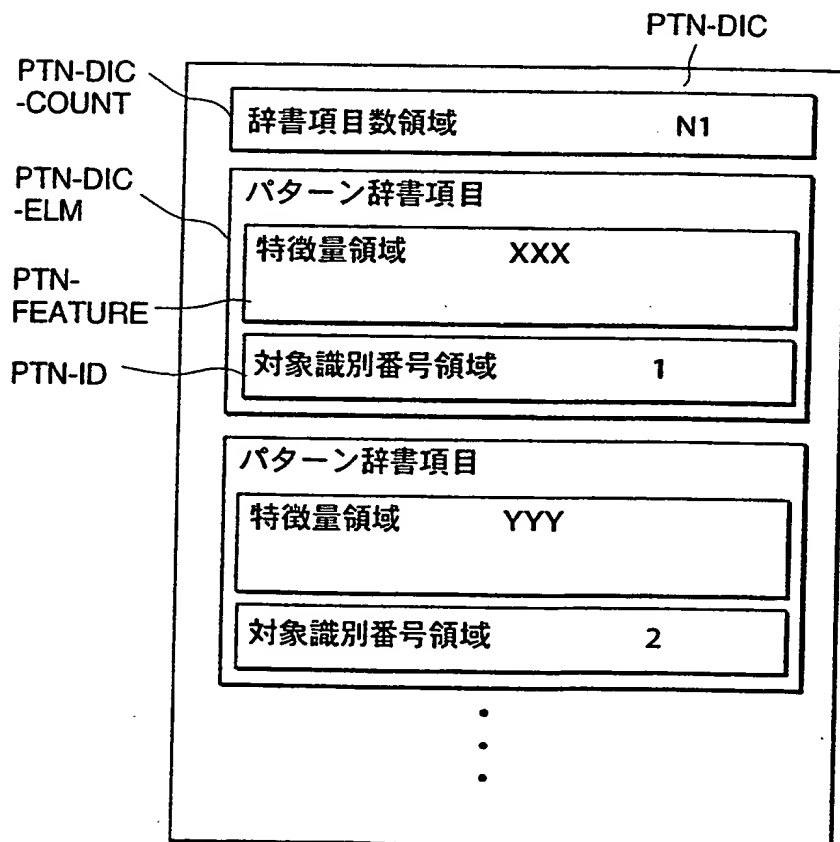
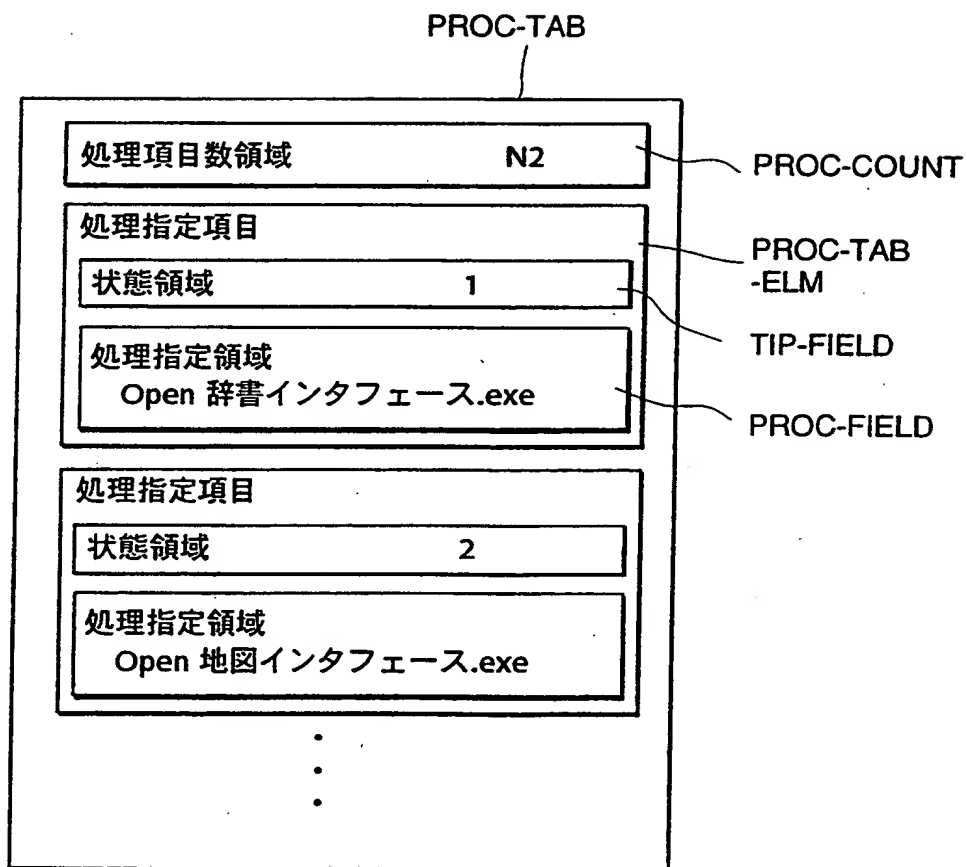


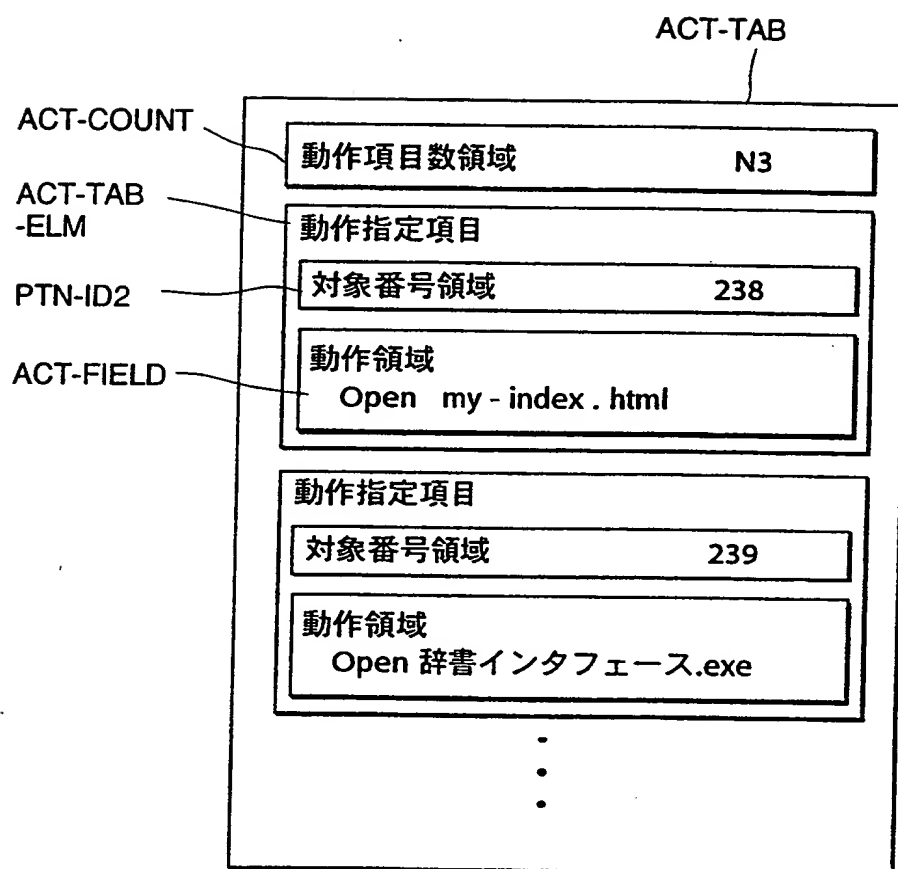
図 31





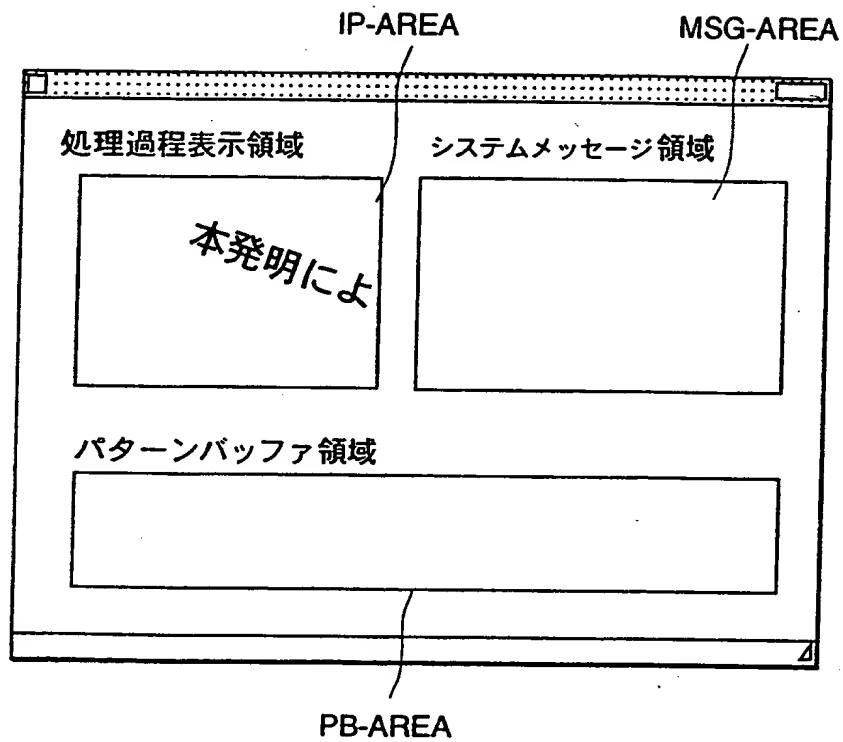
16 / 17

図 32



17 / 17

図 33



# INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP99/04391

## A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl<sup>6</sup> G06T 1/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl<sup>6</sup> G06T 1/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1926-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-1999
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-1999	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-1999

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

JOIS (JICST)

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	Toshifumi Arai, "PaperLink: A Technique for Hyperlinking from Real Paper to Electronic Content.", Human Factors in Computing Systems, ACM, 1997, p. 327-334	1-3, 5, 6, 9
Y	JP, 8-101739, A (YASHIMA DENKI CO., LTD.), 16 April, 1996 (16.04.96) (Family: none)	1-3
Y	JP, 4-129383, A (CANON INC.), 30 April, 1992 (30.04.92) (Family: none)	6
Y	JP, 61-250784, A (FUJITSU LIMITED), 07 November, 1986 (07.11.86) (Family: none)	9

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

\* Special categories of cited documents:  
 "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance  
 "E" earlier document but published on or after the international filing date  
 "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)  
 "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means  
 "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention  
 "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone  
 "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art  
 "&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search  
01 November, 1999 (01.11.99)

Date of mailing of the international search report  
16 November, 1999 (16.11.99)

Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

## 国際調査報告

国際出願番号 PCT/JP99/04391

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))  
Int. Cl.<sup>8</sup> G06T 1/00

## B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))  
Int. Cl.<sup>8</sup> G06T 1/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1926-1996  
日本国公開実用新案公報 1971-1999  
日本国実用新案登録公報 1996-1999  
日本国登録実用新案公報 1994-1999

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)  
JOIS (JICST)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	Toshifumi Arai, 「PaperLink: A Technique for Hyperlinking from Real Paper to Electronic Content.」, Human Factors in Computing Systems, ACM, 1997, p.327-334	1-3, 5, 6, 9
Y	JP, 8-101739, A (八洲電機株式会社) 16. 4月. 1996 (16. 04. 96) (ファミリーなし)	1-3
Y	JP, 4-129383, A (キャノン株式会社) 30. 4月. 1992 (30. 04. 92) (ファミリーなし)	6

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの  
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの  
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)  
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献  
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの  
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの  
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの  
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

01. 11. 99

国際調査報告の発送日

16.11.99

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

新井則和



5H

8937

電話番号 03-3581-1101 内線 3531

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	J P, 61-250784, A (富士通株式会社) 7. 11月. 1986 (07. 11. 86) (ファミリーなし)	9

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☒ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**